

白血病に打ち勝った池江選手 コロナに打ち勝つての五輪開催を

4月4日に行われた水泳の日本選手権において、100mバタフライで優勝した池江璃花子選手。見事に派遣標準記録である57秒92を突破し、東京オリンピック代表の内定を獲得いたしました。

そもそも東京オリンピックでの活躍が期待されていた池江選手は、2019年の2月に白血病と診断され、爾来過酷な闘病生活を続けてこられました。

その間も「絶対に戻る」と心に決めていたプールに池江選手が戻ってきたのは2020年の夏のことでした。

闘病生活中も、競技に戻ってから常にも笑顔を絶やさなかった池江選手が、この勝利で初めて見せた涙は、多くの感動を呼んだと思います。

私も69歳から今日まで、数年の間に生死に関わる病気をいくつも経験し、それでもこうして戻ってこられたのは、取りも直さず「やり残したことがある」「まだまだ終われない」という精神のおかげであったと思います。

気をつけなければいけないのは、池江選手のこの快挙を「奇跡の復活」としてオリンピックの開催問題に利用しないことです。

命を賭して病気と闘い、復活を遂げた池江選手が、私を含め多くの病気と闘う人々に与えてくれた勇気は素晴らしいものであり、その池江選手が胸を張ってオリンピックに出場できるよう、この新型コロナウイルス感染症を乗り越えて、7月に東京オリンピックが見事に開催されることを祈りたいと思います。

私は、神様は超えることのできない試練は与えないと思っています。

女優の夏目雅子さん、11代目市川海老蔵夫人だった小林麻央さんなど、若くして亡くなられた方たちもいらっしゃいますが、池江さんの「復活する」という一途な思いがこの復活を生んだのだと思います。

池江選手も、そして日本や世界も、今まさにコロナ禍（病気）との戦いの中にあります。

だからこそ、国民一丸となって、病気と戦い、経済の復活を遂げ、見事にオリンピックを開催させ、成功させなければならないのです。

スタート台に「ただいま」と呟いて上がった池江璃花子選手。いまこそメダル云々ではなく、池江選手の復活を祝福させていただきたいと思います。

本誌主幹 大中 吉一